

TIC NEWS

vol. **138**
2021.1

(公財) とやま国際センター

〒930-0856 富山市牛島新町5-5

インテックビル4F (タワー111)

TEL (076) 444-2500

FAX (076) 444-2600

E-mail: tic@tic-toyama.or.jp

URL: <http://www.tic-toyama.or.jp>



令和2年度富山県国際交流部門功労表彰・第25回とやま国際草の根交流賞受賞者の皆様

令和2年度富山県国際交流部門功労表彰 第25回とやま国際草の根交流賞表彰式

去る12月17日、富山県庁において、富山県との共催により、“富山県国際交流部門功労表彰”及び“とやま国際草の根交流賞”の表彰式を行いました。

第25回とやま国際草の根交流賞及び 令和2年度富山県国際交流部門功労表彰

表彰を受けられたのは、以下の皆さまです。

ーとやま国際草の根交流賞ー

大森 茂 さん

富山市民国際交流協会において、「国際交流フェスティバル」など、国際交流事業・多文化共生事業の企画運営を担われるとともに、富山・中国ネットワークにおける中国との交流活動やチングサラントンアリ（韓国との交流団体）への参画等、日中、日韓の相互理解に貢献されました。

角 光則 さん

劇団文芸座において、長年にわたり「富山国際アマチュア演劇祭」、「とやま世界こども演劇祭・舞台芸術祭」の企画立案・運営等に携わられるとともに、県芸術文化協会の海外派遣事業に積極的に協力されるなど、舞台芸術等における国際交流に尽力されました。

茶木 素行 さん

富山県海外移住家族会において、長年にわたり中心メンバーとして留守家族の相互間の連絡調整や移住先家族の援護にあたられるとともに、県費留学生等の交流事業において、地元五箇山の衣食住等の文化紹介など、幅広い国際交流の推進に貢献されました。

野原 恵美 さん

高岡市日中友好協会において、中国語の相談、情報交換事業の「歓聚一堂」、中国人研修生等との交流事業の「春節のつどい」等に積極的に携わられるとともに、高岡市国際交流協会において相談員として活躍されるなど、地域における国際交流や多文化共生に尽力されました。

野村 勲 さん

富山県日韓親善協会において長年にわたり役員として協会運営に携わられるとともに、「日韓友好の集い」など各種交流事業の実施において中心的な役割を果たされるなど、日韓における国際交流・相互理解の推進に貢献されました。

高翔会 代表 中谷 静子 さん

高岡市における「たかおか国際交流フェスタ」等の各種交流事業に積極的に携わられるとともに、外国人を対象とした茶会等を催される等、日本文化を発信し、コロナにより困窮する留学生にお米を支援されるなど、幅広い国際交流・援助事業を実施されました。

ー富山県国際交流部門功労表彰ー

日本語教室 in 氷見ボランティアグループ

代表 中川 榮子 さん

相互学習型の日本語教室を開催し、市内在住の外国人に対して日本語学習支援を行うとともに、地域の生活情報・緊急災害時の情報提供等の生活支援も行うなど多文化共生の推進に貢献されました。



国際交流人材バンク通訳者セミナー

日 時：令和2年10月24日(土) 13:00～15:00

～コロナ禍を生き抜く“遠隔通訳”の始め方～

講 師：ブラッドリー純子 氏（会議通訳者・EJ Expert代表）

今回で19回目を迎える通訳者セミナーですが、コロナ禍の中で対面での通訳業務が減少している昨今、今年は初めてオンラインにてセミナーを実施しました。講師として、アメリカカリフォルニア州在住の会議通訳者、ブラッドリー純子氏を迎え、今後ますます需要が高まる“遠隔通訳”について米国よりリモートにてご講演いただきました。

豊富な実務経験と専門知識に基づいた講演では、具体的な遠隔通訳の仕方の解説に加え、今回はZoomのウェビナー機能を使って実際に6名の英語同時通訳者による遠隔通訳も実施され、視聴者はZoom上で日英のチャンネルを切り替えながら、遠隔同時通訳の視聴・体験をしました。

講演の最後には、“スキルを身に着けさえすれば、地域にいながらでも今後はグローバルに活躍できるチャンスが訪れる”といった地域の通訳者に向けた力強いお言葉もいただき、参加者からは、「地方在住でなかなか一步を踏み出せずにいたが、今後はいろいろなことにチャレンジしてみたい」、「通訳者としてのモチベーションが上がった」、「通訳者においてもITリテラシーが今後ますます求められると感じた」等の声が寄せられました。



ブラッドリー 純子 氏

令和2年度 第2回 日本語支援ボランティアスキルアップ研修会

日 時：令和2年11月14日(土) 13:00～15:00

Withコロナ社会での日本語支援

～私たち地域日本語支援者と日本語教育推進法～

講 師：神吉 宇一 氏（武蔵野大学 准教授）



神吉 宇一 氏

今年度2回目となるスキルアップ研修会は、日本語教育学会の副会長、文化庁地域日本語教育アドバイザー等として多忙を極める神吉宇一氏を講師としてお迎えしてZoomオンラインセミナーを行いました。

まずは国内の外国人受け入れの動向について説明がありました。在留外国人は2013年から急激に増え、そのうちの外国人労働者の割合を考えると、2009年には全体の1/4程度だった外国人労働者が2019年には全体の約1/2となっており、日本の外国人の受け入れ拡大は、産業の維持のための労働者の受け入れ拡大であるともいえます。さらに内訳をみると技能実習生と資格外活動が全体の半分弱を占めますが、これはいわゆる本来、就労目的ではない在留資格の外国人であり、このような雇用状況は「サイドドアによる受け入れ」と言われ国際的にも非難される政策となっています。

一方、日本語教育者側から日本語教育の公的保障の必要性が以前から叫ばれており、法制化の議論もありました。また、既に外国人が増加してきた地方自治体で問題意識をもって取り組んでいたところも少なくありません。こういった流れを経て2019年に日本語教育推進法の施行に至ったわけですが、この法律には2つの大きなポイントがあり、一つは日本語教育の目的が“共生社会の実現”である点、もう一つは日本語教育の実施責任主体を「国、地方公共団体、事業者」とであると明記した点です。また画期的な点として、「幼児期及び学齢期にある外国人等の家庭における教育等において使用される言語の重要性に配慮」という子供の母語に配慮した視点が加わっていることが挙げられます。

さらに中期計画である基本方針では「(外国人等が)自立した言語使用者として生活していく上で必要な日本語能力を身につけ、日本語で意思疎通を図り、生活できるようになることが必要」と明記されています。（※自立した言語使用者＝CEFR（外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠）のBレベル程度、およそ中級レベル）

現在、全体の約1割程度の在留外国人しか日本語を学習していないと言われており、残りの9割の外国人の日本語運用の実態を調査すること、また、日本語教育目標を数値化していく必要など、課題はまだ多く残されています。

地域に住む外国人はどういった人たちなのか？ 永住者なのか？ 技能実習生なのか？ それぞれの地域の特性に応じた日本語支援を考える必要があり、日本語の教え方だけを考えていても、もはや地域共生社会の中での日本語教育の仕組みは十分に確立できないということがいえます。地方で日本語支援に携わる我々にとって多くのことを考えさせられる講義となりました。

とやま国際塾

日 時：令和2年11月15日(日) 9:30～16:00

講 師：松山 優子 氏（JICA富山デスク）／CHIKO さん（ジャズシンガー）



CHIKO さん

例年2日間にわたり開催される、県内高校生を対象とした“とやま国際塾”は、今年はコロナの関係で1日のみの開催となりましたが、県内18名の高校生と、4か国7名の留学生、4か国4名の国際交流員（CIR）が参加し、お互いに交流を深めました。

最初に自己紹介やゲームで緊張をほぐした後は、グループに分かれ、“日本(富山)に住む外国人”をテーマに、高校生たちは留学生やCIRに質問をしたり受けたりして会話を楽しみ異文化に触れました。

午後からは、JICA国際協力推進員の松山優子さんに国際理解と国際協力についてお話しいただきました。青年海外協力隊に興味がある参加者も多く、メキシコでストリートチルドレン支援をされていた松山さんのお話は、高校生たちの視野を広げ、将来を考えるうえで良い参考になったようです。

続いて、コンゴ出身の父を持つミュージシャンCHIKOさんから「自分らしさとは何か」をテーマに講演をしていただきました。髪や肌の色にコンプレックスを感じ、ずっと自分のことが嫌いで受け入れられずにいた学生時代の葛藤や支えとなった家族とのエピソードなどが紹介され、時折ユーモアを交えたお話と、講演の合間に披露された力強く美しい歌声に、会場が感動に包まれました。最後はCHIKOさんを囲んで記念撮影をし、短くも有意義なイベントとなりました。



災害時の外国人支援

富山県には、令和2年1月1日現在、県内すべての市町村において計19,494人の外国人の方が在住しています^①。その中にはこれまで地震や台風などを経験したことがない方も少なくないため、そもそも災害がどのようなものなのかを想像することが難しく、正しい情報を入手することも困難な状況にあります。災害時の行動も日本人が小さい頃から教わってきたものとは大きく異なります。今号では、とやま国際センターの取組と、やさしい日本語について紹介します。



①外国人住民市町村別人員 (R2.1.1現在)

		人数 (人)
1	中国	5,066
2	ベトナム	4,535
3	ブラジル	2,729
4	フィリピン	2,419
5	韓国	875
6	インドネシア	684
7	パキスタン	545
8	ロシア	469

②国籍別住民数上位8か国 (R2.1.1現在)

TICの取り組み

災害時の外国人住民支援についてTICで実施した活動を紹介します。

- ①災害時外国人支援ボランティア研修 (やさしい日本語)
日時：令和2年10月10日(土) 14:00～15:30
- ②災害時外国人支援ボランティア研修 (多言語翻訳研修)
日時：令和2年10月31日(土) 14:00～15:30
- ③外国人のための防災講習会
日時：令和2年11月1日(日) 14:00～15:30
- ④災害時外国人支援研修 第1部：感染症蔓延期における災害時の外国人対応
(自治体職員向け) 第2部：災害時のやさしい日本語
日時：令和2年11月6日(金) 13:30～17:30
- ⑤外国人への防災情報提供



FMラジオ番組「BOUSAI RADIO」で防災情報を4か国語で提供。(毎週第1・3土曜日 PM9:55～)

災害時外国人支援研修「感染症蔓延期における災害時の外国人対応」より

11月6日(金)に開催された「災害時外国人支援研修」は、県内から自治体や国際交流協会等の職員等計12名が参加しました。講師として人と防災未来センター(神戸市)主任研究員の楊梓氏を迎え、感染症蔓延期における災害時の外国人支援についてご講演いただきました。

講演では、2016年の熊本地震の実際の写真を示しながら、現場ではどのような問題が起こったのか、そして災害時の公助として何が必要かを具体的にお話いただきました。



人と防災未来センター
主任研究員 楊梓氏

コロナの中での災害対策は、日本人への支援だけでもすでに厳しい状況にあり、密回避のための避難所の分散や人材不足に加え、コロナ禍での被災がさらなる生活困窮者を生むものと予測されます。外国人住民についても例外ではなく、災害時の支援にとどまらない、その後の中長期的な支援が必須です。また、現在では日常になりつつあるアルコール消毒も、宗教上の理由で使用できない外国人も多くおり、避難所でのハラル対応やお祈りの場所の確保等、個別ニーズへの配慮が今後ますます求められます。

参加者からは、「外国人住民の目線にたって支援を考える良い機会になった」、「具体的な事例が参考になった」等の感想が寄せられました。

やさしい日本語とは？

▶ どちらが分かりやすいですか？

- ・緊急地震速報 余震に注意してください。
沿岸部や川沿いにいる人は、高台に避難してください。
- ・じしんがありました。あとで くる じしんに きをつけて ください。うみ や かわの ちかく に いる ひとは すぐに たかい ところ に にげて ください。



NHKのツイッター

これは、台風19号についてNHKが2019年10月にツイートした「やさしい日本語」のニュースです。コメント欄では「英語や機械翻訳で良い」や「バカにしている」など否定的な意見も投稿されましたが、世間に「やさしい日本語」が注目される良い機会にもなりました。

きっかけは阪神・淡路大震災

「やさしい日本語」とは、普通の日本語よりも簡単で、外国人にもわかりやすい日本語のことです。1995年1月の阪神・淡路大震災では、日本人だけでなく日本にいた多くの外国人も被害を受けました。その中には、日本語も英語も十分に理解できず必要な情報を受け取ることができない人もいました。

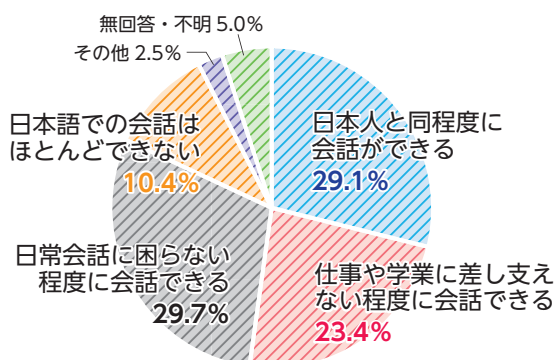
そこで、そうした人達が災害発生時に適切な行動をとれるように考え出されたのが「やさしい日本語」です。また、外国人だけではなく、漢字や難しい言葉が分からない子どもにも伝わりやすい「易しい」、そして「優しい」日本語でもあるのです。

英語や機械翻訳ではダメなの？

現在、富山県内に在住している外国人は19,494人（R2.1.1現在）で、その国籍は90か国にもおよび、言語や習慣も様々です。

国籍別の外国人住民数上位8か国（②）を見ると、1位が中国、2位がベトナム、3位がブラジルで、その他を含めてもほとんどの在住外国人が英語を母語としていないことが分かります。

平成28年度の法務省による「外国人住民調査報告書」



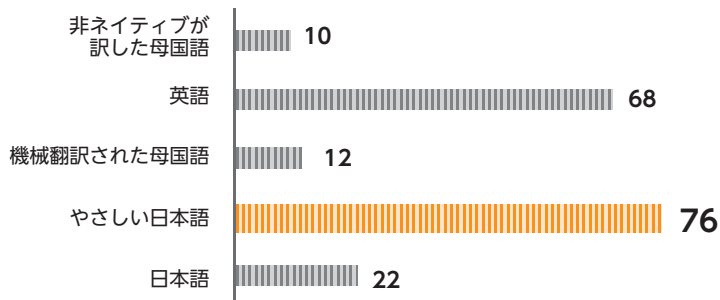
③平成28年度法務省委託調査「外国人住民調査報告書」

告書」(③)によると、「日本人と同程度に会話できる」人が29.1%、「仕事や学業に差し支えない程度に会話できる」人が23.4%、「日常会話に困らない程度に会話できる」人が29.7%と、合わせると実に8割以上の外国人が簡単な日本語での会話が可能であることが分かります。

また、「外国人が希望する情報発信言語」についての2018年の東京都国際交流委員会の調査(④)では、英語の68人を抑え、76人の方が「やさしい日本語」での情報発信を希望しています。

相手を思いやる優しさ

それぞれの母語で情報を発信しようとしても、どうしても対応できない言語がでてきますし、そもそも翻訳には時間やコストがかかります。災害時には、特に迅速な対応が求められるので、翻訳や通訳に時間・コストのかからない「やさしい日本語」がとても役に立つのです。「やさしい日本語」には正解はありません。何が相手にとって「やさしい」か考え、寄り添うことが、お互いの理解への一歩につながります。皆さんもぜひ「やさしい日本語」を使ってみてください。



④東京都在住外国人向け情報伝達に関するヒアリング調査（東京都国際交流委員会2018年）

コロナ禍でのJICAの取り組みをご紹介します！

①「健康と命のための手洗い運動」を実施中！

新型コロナウイルスの感染予防には、適切なタイミングや方法での手洗いが有効だと言われています。特に開発途上国では手洗いのような衛生的な行動を定着させることが非常に重要です。そこで、JICAでは手洗い運動を様々なツールを使い、各国で広めようとしています。



井上きみどりさんが描いた「正しい手洗い漫画」を現在、多数の言語に翻訳中



各国の協力隊員による手洗い動画を作成(写真:カメルーンの隊員)

②協力隊の募集はなくとも、協力隊キャラバンや説明会をオンラインにて実施中！

コロナ禍の影響で、JICA海外協力隊の募集は現時点ではありませんが、年間を通じて説明会を実施しています。

また「説明会情報・予約ページ」に登録すると、説明会に参加できるだけでなく、募集情報やイベント情報の案内も届きます。

(参考: <https://www.jica.go.jp/volunteer/>より)

他にもJICAのコロナ禍における取り組みについてはこちらをご参照ください(QRコード) →→→
<https://www.jica.go.jp/COVID-19/ja/index.html#LatestNews>



JICA海外協力隊からの現地レポート

— 番外編 日本にいてもできること —

世界中で活動しているJICA海外協力隊員は、現在、新型コロナウイルスの影響により一時帰国を余儀なくされている状態です。そのような中、海外での経験を活かし、国内で活動している富山の協力隊員を紹介します。

2018年度 3次隊 宮村 登茂子(みやむら ともこ)さん(派遣国:アルゼンチン、職種:文化)

今年3月末、新型コロナウイルスの世界的感染拡大の影響を受け一時帰国しました。帰国後は感染の終息と再派遣の見通しが立たない中、アルゼンチンの友人達とスペイン語で連絡を取り合ったり、JICAやNPO法人が主催するSDGsや障害者支援等のオンライン研修に積極的に参加しました。

郷里での滞在期間が長引くにつれ、この機会を前向きに捉え、積極的に地域を知り、地域の抱える問題に目を向け、理解し、地域の人々と交流・親交を深めながら貢献活動を行う貴重なチャンスと捉えるようになりました。そして「大島こでまりの会」の絵本の読み聞かせ・人形劇・レクリエーションのボランティアに参加したり、「音訳・



「音訳・あゆの風」



「大島こでまりの会」にて。右から2番目が宮村さん

あゆの風」による音訳ボランティア養成講座で視覚障害者や高齢者用録音図書制作の技能習得に励んだり、「ひきこもりサポーター養成研修」等に出席し研鑽を重ねながら活動の幅を広げています。

地域に寄り添った学びや活動から、日々新たな発見や感動、そしてかけがえない時間をいただいています。再派遣の日まで、このような充実した日々を積み上げ、地域での活動を徐々に広げながら、自身も成長していきたいと思っています。

共に生きる TOYAMA

エルデネ オユン エルデネ さん（モンゴル・ウブスハンガイ県出身）



来日のきっかけ

幼い頃、テレビで見た、再放送のNHK連続テレビ小説「すずらん」が、私が日本に興味を持つ最初のきっかけでした。北海道の小さな駅に捨てられ駅長に育てられた主人公、萌の波乱万丈な人生を描いたドラマで、夢中になって見ていたことを今でも思い出します。主人公の女の子がかわいらしく、幼いながら日本という国がぐんと近く、親しくなった気がしていました。

そんなきっかけもあり、高校卒業後はモンゴル国立大学で日本語とモンゴル語の言語学を専攻しました。在学中の4年間で日本語はかなり上達しましたが、就職を考えた際、なかなかモンゴル国内で日本語を日常的に使用できる職場は多くなく、このまま日本語を忘れてしまうのは惜しいな、と感じていました。

そんな時、大学の教授から現在の職場でもある光ヶ丘病院で看護師の奨学金を受けられることができると聞き、すぐに私は富山に行くことを決めました。

初めて富山に来た日のことは今でも鮮明に覚えています。看護学校の受験のために、初めて日本、そして富山にやって来ました。2011年の冬のことでした。その年は例年になく大雪だったそうで（そんなこととは私は知らなかったのですが）、あたり一面が真っ白で、人通りも少なく、なんて寂しいところだろうと心細く思ったものです。晴れて合格して、再び富山を訪れた日には最初の印象はすぐに消えましたけどね。一度東京に遊びに行きましたが、あまりの人の多さに、やっぱり私は富山の方が好きだな、とつくづく思いました。

現在の仕事について

前述のとおり、光ヶ丘病院のおかげで看護学校の奨学金を得ることができ、国試にも合格し、現在は晴れて看護師として勤務しています。やはり、いくらモンゴルで日本語を4年間勉強してきたとは言え、初めて聞く医療用語を覚えるのには相当苦労しました。クラスみんなに後れを取らない様、とにかく一生懸命勉強しました。ただ、看護学校時代、そして現在の職場でも思うのは、私は本当に周りの人に恵まれているな、ということです。きっと私に分かりづらいだろうなと思うことはみなさん先回りして丁寧に教えて下さり、時には紙に書いて何度も根気強く指導をしていただきました。本当に富山の人々の温かさを感じましたね。

患者さんの中にも私の名札を見て、「どこの国の人け」と話しかけてくださる方もいらっしゃる、一緒にモンゴルの話をしたり、私の知らない日本の様々なことを教えてくださったり、本当に素晴らしい環境だなと思います。

私はもともと、モンゴルで医療従事者だったわけではないので、モンゴルと日本の病院のギャップに戸惑うことはあまりありませんでしたが、日本の医療はやはり一流ですね。特に感じるのは、患者さんへの精神的なケアまできちんとされているところです。モンゴルでは、どちらかというと手術や手当をしたらハイおしまい、ということが多く、術後や入院患者への精神的ケアはあまり重要視されていません。日本の医療の、いつも患者さんに寄り添う姿勢は本当に素晴らしいと思います。母国にもぜひ取り入れていきたいですね。

仕事で大変なこと

富山歴はすでに8年を過ぎましたが、困ったことは1つだけ、富山弁です（笑）。日本語は、日常会話から医療用語までなんとかひと通りは分かりますが、こと富山弁に関しては別ですね。特に患者さんの中にはご高齢の方もいらっしゃる、聞き取りが本当に難しく、就職したての頃は何度も苦労したことを思い出します。

今では代表的な富山弁はある程度マスターしましたから、私も富山弁を患者さんに披露することもありますよ。やっぱり自分の慣れ親しんだ言葉は安心されるのか、患者さんに富山弁を使うと喜んでくださるのが嬉しいです。

富山での生活について

富山に来てから、現在の主人と出会い、昨年には子供も生まれました。先々月までは産休・育休を取得していましたが、先日息子も元気に1歳を迎え、現在は仕事と子育ての両立に奮闘中です。

初めて日本に来たのは2011年の冬のことでしたが、この年はご存知の通り東日本大震災があった年でした。世界を震撼させたニュースで、もちろんモンゴルでも大きく報道されました。家族の中には日本への渡航を心配する声もありましたが、富山にきて聞いた、ある言葉に実は私も家族もとても安心したのを覚えています。一富山は立山が守ってくれるから大丈夫。学校でも職場でも幾度となく聞いてきた言葉です。確かに私が富山に来てから大きな災害は一度もなく、本当に守られているな、と今ではすっかり私も家族も立山信者です。

最後に

まずはじめに、一刻も早くコロナウイルスが収束することを願っています。はやく平和な年が訪れますように。

そして、日本で働くという私の夢をかなえてくれた光ヶ丘病院に改めて感謝を伝えたいです。今の私があるのは周りの皆さんのおかげだといつも思っています。本当にありがとうございます。

オユンさんが受けられた奨学金制度は現在、（公社）サンライズ・ネットワークス（県内3つの医療法人で立ち上げた、海外からの医療介護人材受入れ法人）にて運営されています。今回、オユンさんを紹介して下さった担当の井上さんから一言：オユンさんをきっかけに、当法人を通じて25名のモンゴル人留学生が看護師、介護福祉士として現在も富山で頑張っています。

Nasi Goreng (ナシゴレン)

インドネシアのチャーハン、「ナシゴレン」を日本で手に入りやすい材料で再現したレシピです。ご自宅いかがですか？スパイスの香りが食欲をそそります。食材の様々な食感も楽しめる一品です。とても美味しいので是非作ってみてください。



～作り方～

1. チキンソーセージ、赤タマネギ、キャベツ、小松菜、ニンニク、鷹の爪を5mm程度のみじん切りにする。
2. フライパンにごま油を熱し、卵、ニンニク、赤タマネギ、鷹の爪、チキンソーセージ、鶏ひき肉を入れて弱火で炒める。
3. 鶏肉の色が変わったら、ごはん、キャベツ、小松菜、しょうゆ、ナンプラー、塩コショウを加え、中火で炒めながらよく混ぜる。
4. 全体に馴染んだら、火を消す。
5. フライドオニオンとねぎを、ご飯の上にふりかける。
6. スライスしたきゅうりを、皿に飾り付ける。



Selamat Makan! (めしあがれ)

～材料～ (2人分)

卵	1個
ニンニク	1片
赤タマネギ	1/4個
鷹の爪	1本
チキンソーセージ	2本
鶏ひき肉	100g
ごはん	200g
キャベツ	1/4個
小松菜	1束
ごま油	小さじ1
しょうゆ	小さじ1
ナンプラー	小さじ1
塩コショウ	少々

(飾り)

ねぎ	1本
フライドオニオン	大さじ1
きゅうり	1本

TICからのお知らせ

これからの行事予定

ナマステインディア

- 1/18・25(月) インドのお正月の過ごし方
2/ 1・ 8(月) インドのオリンピック選手団について
3/ 8・22(月) ラーマヤナについて
時 間：18:30～20:00
場 所：とやま国際センター ラウンジ

外国語の絵本よみかせ親子の会

- 1/16(土) 10:00～11:00 英語
2/13(土) 10:00～11:00 英語
3/13(土) 10:00～11:00 中国語
場 所：環日本海交流会館
対 象：小学校低学年までの子どもとその保護者等

多文化共生フォーラム

- 日 時：1/24(日) 14:00～16:30
場 所：インテックビル 3階 スカイホール
定 員：250名
[第一部] 対談「私は私のままでいい」
(ゲスト：ジャズシンガー-CHIKOさん)
[第二部] 意見交換「外国につながる子どもたちは今」
[第三部] CHIKOさん ミニコンサート

BOUSAI RADIO

- 第一土曜日：やさしい日本語、中国語
第三土曜日：英語、ポルトガル語
FMとやま 周波数82.7MHz 21:55～22:00
テーマ：1月「寄り回り波について」
2月「雪崩について」
3月「我が家の防災会議」



(公財)とやま国際センター 公式Facebookを開設しました！

公益財団法人とやま国際センターの公式Facebookが開設されました！

やさしい日本語を使って、TICのイベント情報や、富山県内に在住の外国人の皆さんに役立つ情報を随時発信しています。

ぜひ、「いいね！」をお願いいたします♪